

令和7年度前期入学第1回試験 がん看護 【出題意図】

【問1】

最新のがん対策の方向性を理解し、政策を看護実践へ適切に結びつける力を評価する。

【問2】

国際的エビデンスに基づく予防知識を理解し、それを看護実践に適切に応用できる力を評価する。

令和7年度前期入学第1回試験 がん看護 【解答例】

【問1】

院内でAYA世代の交流の場として、年2回のレクリエーションを実施している。AYA世代は発達課題や生活背景が成人期のがん患者と異なり、妊孕性など特有の悩みを抱える一方、同世代の患者数が少なく、悩みを共有できる機会が乏しい。また、SNSやインターネット上の情報は過多で信頼性にばらつきがあり、意思決定に活用しにくい。

そのため、医療者が専門的視点で支援しつつ、心理的安全性を確保した対面交流の場を設けることが重要と考え、レクリエーションを企画している。この取り組みは、がん対策推進基本計画における「がん医療の充実」、特に小児がん・AYA世代のがん対策に資する活動と考える。

【問2】

alcohol consumption: 飲酒は、口腔・咽頭、食道、肝臓など複数の臓器におけるがんの危険因子であることが指摘されている。患者に対し禁酒が望ましいことを説明したうえで、実践が難しいと話す患者には、散歩や入浴、ノンアルコール飲料への置き換えなどの代替行動を提案し、休肝日を設けるなど、減酒に向けた具体的なステップを一緒に検討している。

air pollution: PM2.5分布予測が高い日の外出調整やマスク着用を助言している。特に喫煙者には、大気汚染と喫煙が重なることで肺がんリスクが相乗的に上昇することを説明し、禁煙外来の受診を勧めている。